

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月22日

タイにおけるワクチン接種とブレークスルー感染率、入院率、死亡率の関連：

前向きコホート調査

Lancet: オミクロン株流行中のワクチン接種が妊娠経過にもたらす効果：国際的観察研究

### 【松崎雑感】

ワクチンの効果を改めて示す論文を紹介します。タイでは、ワクチン1回接種で、死亡リスクが96%低下していました。

ワクチンを3回接種した妊婦さんは、たとえ感染しても、ワクチン未接種の妊婦さんよりも死亡リスクが91%減少（つまり10分の1）することがわかりました。

妊娠中あるいは妊娠予定の方には、一刻も早くワクチン接種をお勧めします。

松崎道幸 道北勤医協ながやま医院 [matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp](mailto:matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp)

タイにおけるワクチン接種とブレイクスルー感染率、入院率、死亡率の関連：

## 前向きコホート調査

Wichaidit M, Nopsopon T, Sunan K, et al. Breakthrough infections, hospital admissions, and mortality after major COVID-19 vaccination profiles: A prospective cohort study. *Lancet Reg Health Southeast Asia*. 2023;8:100106. doi:10.1016/j.lansea.2022.100106

### 背景

タイ政府が設置した中央ワクチン接種センター（CVC）のリアルワールドデータに基づいて、ワクチン接種の効果を評価した。

### 方法

1回以上ワクチンを受けた場合のブレイクスルー感染、入院、死亡を前向きコホートで追跡した。

## 結果

1回以上ワクチンを受けた240万7315名から、6万3469名（2.75%）のブレイクスルー感染、4万2001名（1.79%）の入院、431名（0.02%）の死亡が確認された。

接種回数が1回増えるごとに、ブレイクスルー感染が18%減少し、入院が25%減少し、死亡が96%減少していた（いずれも有意）。

同種のワクチンを複数回接種するよりも、異種のワクチンを複数回接種する方が感染、入院、死亡リスクがより減少していた。

## 考案

ワクチン接種回数が増えるにつれて、感染、入院、死亡リスクが有意に減っていた。異種ワクチンの組み合わせの方が効果が高かった。

## オミクロン株流行中のワクチン接種が妊娠経過にもたらす効果：国際的観察研究

Villar J, Soto Conti CP, Gunier RB, et al. **Pregnancy outcomes and vaccine effectiveness during the period of omicron as the variant of concern, INTERCOVID-2022: a multinational, observational study** [published online ahead of print, 2023 Jan 17]. *Lancet*. 2023;S0140-6736(22)02467-9. doi:10.1016/S0140-6736(22)02467-9

### 背景

新型コロナウイルス感染が妊娠経過に悪影響を与えることが分かっている。オミクロン株流行中に、ワクチン接種が妊娠経過にもたらす効果を検討した。

### 方法

18か国41病院が参加するINTERCOVID-2022という大規模国際観察調査。新型コロナウイルス感染が確定診断された妊婦と、未感染の妊婦のペアを比較した。妊娠経過と出生時の予後を追跡した。追跡指標は、妊産婦の罹患率および死亡率指数(MMMI)、重度の新生児罹患率指数(SNMI)、および重度の周産期罹患率および死亡率指数(SPMMI)。ワクチンの有効率は妊産婦のリスクプロファイルによって調整した。

## 結果

オミクロン株流行中に、4618名の妊婦を登録した。1545名（33%）が新型コロナ感染確定、3073名（67%）が未感染。非感染妊婦と比較して、感染妊婦は妊産婦の罹患率および死亡率指数(MMMI)が1.16倍、重度の周産期罹患率および死亡率指数(SPMMI)が1.21倍と有意に増加していた。

一方重度の新生児罹患率指数(SNMI)が1.23倍増加していたが有意でなかった。ワクチン接種妊婦と比較して、ワクチン未接種妊婦の妊産婦の罹患率および死亡率指数(MMMI)は1.36倍と有意に増加していた。

登録妊婦全員について検討したところ、新型コロナが重症化した場合、重症の妊娠合併症が2.51倍、周産期合併症が1.84倍、ICU治療への移行と死亡リスクが11.83倍といずれも有意に増加していた。

ワクチン未接種妊婦が重症化した場合、妊産婦の罹患率および死亡率指数(MMMI)が2.88倍、ICU治療への移行と死亡リスクが20.82倍と有意に増加していた。

登録妊婦の63%は一回以上、54%は2～3回ワクチンを受けていた。未接種妊婦と比較して、ワクチン2回接種妊婦の重症化は48%低下、3回接種では76%低下していた（いずれも有意）。**新型コロナ感染妊婦では、2回接種で74%、3回接種で91%重症化リスクが低下していた（いずれも有意）。**

## 考案

オミクロン株流行中に妊婦が感染した場合、とりわけワクチン未接種あるいは有症状感染の場合、妊娠合併症の増加と死亡が増える。

新型コロナワクチンを2～3回完了することにより、それらのリスクが低減できる。

妊娠中あるいは妊娠予定の人々のワクチン接種率を改善することは喫緊の課題である。